

タブレットを活用した学校紹介ビデオ作りと学習評価

(SUNSHINE English Course 1 Program 4 Let's Enjoy Japanese Culture.)

①話・発

②個・表

②協・整

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

「学校施設の紹介順を生徒がグループで決める」

Google ジャムボードを用いて、学校の施設をどの順番で紹介するのが効果的なのか考え、英語で協議し、整理していく。自分の考えを伝える表現 (I think that... / My idea is...) や同意を得る表現 (Is it OK? / Do you agree?) などをフレーズとして導入し、協働して情報を整理する際に用いることができるようにする。また、順序を表す語句 (First, / Second, / The next is ...) 等も用いて、順序よく紹介できるようにする。このような表現を用い、タブレットを活用することによって、文字情報が口頭による議論を助け、言語活動を促進することができる。

【実践の目標】

相手に自分の学校のことが伝わるように、紹介文の内容を整理し、簡単な単語や文を用いて、相手に分かりやすい流れで紹介することができる。

【実際の場面】

1. 単元の見直しを持つ

「西中バーチャルツアー」と称して学校案内を行うことや、その目的、相手の要求などのミッションの内容を、ビデオメッセージから理解させた。

2. 身の回りにあるものを紹介する

指示代名詞 (this/that) がどのような場面で用いられているか、教科書を用いて理解させた。



3. バーチャルツアーを計画し、作成する

Google ジャムボードを用いて、学校の施設をどの順番で紹介するのがよいか協議し、情報を整理させた。

自分の考えを伝える表現や同意を得る表現などは、サイトトランスレーションの手法を用いて帯で身に付けさせた。その中から生徒が必要な表現を用いて協議している様子が多く見られた。

4. 事実や内容を整理し、相手にとって分かりやすい流れになるように推敲する

敢えてつながりの悪いバーチャルツアー一例を提示し、場面ごとにぶつ切りになってしまっていてつながりがないことに気付かせ、聴き手にとって分かりやすい表現になるように推敲させていった。

5. バーチャルツアーを完成する

オンラインボイスレコーダーを用いて、動画にアフレコし、バーチャルツアーを完成させた。

6. 相互評価を行う

お互いのバーチャルツアーを視聴し、相互評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

○協働で情報を整理する際、タブレットを用いることで、口頭の情報だけではなく、文字情報も使いながら整理することができ、より協議しやすく、多くの発話を促していた。

○アフレコにすることによって、繰り返し録音することができ、生徒自身が自分の発話に意識を向け、改善点を見つけ、修正することができていた。

【課題】

○バーチャルツアー用の動画を作成することや音声と映像を結び付けることに少し時間がかかるが、映像に直接音声をつけるソフトウェア等を活用するとこの時間も短縮することができるかもしれない。

海田町立海田西中学校

